



ハイライトよねやま 124

1 寄付金速報 — 今年度残り1カ月、達成厳しく —

5月までの寄付金は12億1,850万円です。前年同期と比べて11.9%減、約1億6千万円の減少となりました。普通寄付金が2.5%減、特別寄付金が16.0%減と、依然として厳しい状態です。

今年度も残りあと1カ月を切りました。奨学生800人支援に必要な目標額14億5千万円に対し、まだ2億3千万円が不足しています。今期の普通寄付金を納入されていないクラブはお早めにご送金ください。普通寄付金・特別寄付金ともに6月30日(水) 当会口座入金分までが今年度の寄付実績となります。入金7月1日(木)以降になった場合は来年度の寄付となります。ぜひとも今年度最後のご協力をよろしくお願い申し上げます。

2 理事会・評議員会開催報告 — 2010年度事業計画・予算決定 —

6月2日に2009年度第2回評議員会、翌3日に2009年度第3回理事会が、それぞれメルパルク東京(東京都港区)にて開催されました。

評議員会 全国から48名の評議員と、常務理事、監事および島津久厚名誉理事長の11名が出席。議長には、互選によって多田宏評議員(第2580地区ガバナー)が選出されました。

【主な評議員会決議】

- 理事補欠選任：第2610地区前山正一理事の辞任に伴い、津田達雄氏が補欠選任された。
- 2010年度事業計画案および収支予算案、2010年度奨学資金特別積立財産取崩：それぞれ原案通り承認された。

評議員会では、「ホームページを活用して海外の学友に情報発信し、ホームカミング制度を一層推進してほしい」「選考において日本語能力を重視し過ぎているのでは」などの意見が出されました。また、現地採用奨学金の試行結果や、公益認定に向けての進捗状況などについての質疑応答がありました。

理事会 理事30名と監事3名および島津久厚名誉理事長が出席し、議長の板橋敏雄理事長の進行のもと、評議員会の承認を得た上記bが理事会でも承認されたほか、以下が決定されました。

【主な理事会決議】

- 2010年度評議員選出：各地区から推薦された68名の評議員を選任。
- 2011学年度奨学生採用数：寄付金収入の低迷から、目標額14億5,000万円の達成は困難な状況であるが、前年度に引き続き奨学生採用数を800名とすることを決定。同時に奨学事業の意義と重要性を更に広報し寄付への呼びかけを各地区に依頼することとした。

理事会では、「次年度は特別積立財産を取り崩すが、資金集めについて真剣に考える時期に来ているのでは。われわれ理事の役割について具体的に考えていきたい」との発言を皮切りに、各理事が寄付増進の具体策や問題点について活発な意見交換を行いました。



なお、両日とも会議開始前に、東京米山友愛RCの創立会員である張旭梅さん(中国/2005-06/東京広尾RC)がスピーチしました。「ロータリーと出合って人生が変わった。会員となってからはロータリアンに対する理解がさらに深まり、少しずつ成長している自分がある。これからクラブのメンバーとともに、学友・奨学生とロータリー、そして、日本とそれぞれの出身国との懸け橋となるよう頑張りたい」と述べ、大きな拍手が贈られました。



3

東京米山友愛RCの加盟認証状伝達式が開催されました

東京米山友愛ロータリークラブの国際ロータリー加盟認証状伝達式が5月30日、都内で開催され、同地区のロータリアンをはじめ、全国から400人以上が参加しました。国内で初めて米山学友を中心に設立されたこのクラブは会員数29名（うち米山学友18名）、平均年齢37歳、学友以外の会員も在日外国人や留学経験のある日本人で構成され、合わせて19もの言語が話せるという国際色豊かなクラブです。

関博子特別代表（東京世田谷中央RC会長）の点鐘で式典が始まり、設立経過報告、会員紹介のあと、バグパイプ奏者の先導で、黒田RI理事、加盟認証状を捧げ持った学友がスポットライトに照らされながら入場。壇上にて黒田RI理事から久邇ガバナーへ、そして楊錦華クラブ会長へ加盟認証状が手渡されました。楊会長は、「私たちは、助けを必要とする人々の力になりたいという友愛の精神を持ち、世界の懸け橋となるような活動を目指している。会員の若さや国籍の多様さを活かして、奉仕の理想に根差した活動を積極的に進めていきたい」と、決意を語りました。



第2部では、中国米山学友会初代会長・姫軍さん（1995-97 / 東京臨海RC）が特別記念講演を行いました。「若い彼らが果たしてクラブを運営していけるのかと、祝福と同時に心配する気持ちもあるでしょう。しかし、必ずできます！」と、力強く断言。中国学友会華北分会副会長の嘉木揚凱朝さん（1995-97 / 名古屋大須RC）と共に、著名な書道家に揮毫を依頼したという「敬天愛人」と書かれた書軸を掲げながら、「ロータリーと出合ったことは天命。自分のためだけに生きるのではなく、ここにいるロータリアンのように、社会奉仕の精神をもった人間になることを目標とし、今後の長く困難な道のりを一步一步進むことができれば、きっと成功するはず」と結び、万雷の拍手が贈られました。

第3部の祝宴は、ロータリー財団管理委員の田中作次氏、元国際ロータリー理事の服部禮次郎氏、米山学友で駐日アフガニスタン臨時代理大使のバシル・モハバット氏（1982-83 / 名古屋清須RC）らが祝辞を述べました。歓談後は、ペンライトが揺れる幻想的な雰囲気の中、「We are the World」の大合唱で幕を閉じました。



7月上旬、米山記念奨学会ホームページで当日の様子を動画（15分）で公開予定です。

4

韓国米山学友会が再スタート！



韓国学友会の2010年度定期総会が5月28日、韓国ソウル市内で開催され、元国際ロータリー理事の蔡熙秉氏をはじめ、韓国学友77人、日本からは板橋理事長を含むロータリアン4人が参加する盛大な会となりました。

総会では新役員が紹介され、これまで長年学友会長を務めた安熙道さんに代わり、2009年の韓日親善会議でスピーチを行った柳京子さん（第3650地区ニューソウルRC会員、1981-83 / 北茨城RC）が新会長に就任し、3人の副会長も決まりました。これまで低調だった韓国学友会が活動を再開し、今後は総会の定期的開催、ホームページの開設、地域別支部の設置など積極的な活動を展開する予定です。（事務局長 坂下博康）